

第 65 回ガーナ共和国独立記念日 に寄せて



駐日ガーナ共和国大使館
臨時代理大使 エイキンス・アブロクワ

2022年3月6日、ガーナ共和国は独立65周年を迎えました。この素晴らしい機会に、経済界をはじめとした日本の皆様にご挨拶させていただくことを光栄に思います。まず、新型コロナウイルスの流行による困難にもかかわらず、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の開催を成功させた日本の皆様に向けて、特別なお祝いをこの喜ばしい独立記念日にお伝えしたいと思います。

ガーナ独立65周年記念式典は、「Working Together, Bouncing Back Better」をテーマに開催されました。

多くの国と同様、ガーナも新型コロナウイルスの大流行に伴い、負の影響を経験しています。衛生上の危機として始まったこの問題は、急速に開発・経済的危機へと発展し、パンデミック以前に記録された大きな経済的発展を逆戻りさせる結果となりました。

しかし、ナナ・アド・ダクワ・アクフォ＝アド大統領率いるガーナ政府は、新型コロナウイルス流行への直接的な対応の一環として、「Ghana COVID-19 Alleviation and Revitalisation of Enterprises and Support

(CARES)」などの広範囲な介入プログラムを導入し、人命を守り生活を保護するために迅速かつ果敢な行動をとりました。

パンデミックが起こってから2年が経過し、ガーナは新型コロナウイルスに効果的に対処した国の一つとして認識されています。日本など戦略的パートナーである国々と協力しながら、ガーナは二国間および多国間レベルで幅広い課題に取り組み、また経済界や市民社会組織を巻き込んで、パンデミックとの戦いの中に信頼と希望を回復させました。この点で、ガーナを含む発展途上国に大量のアストラゼネカ社製ワクチンを寄付してくださった日本政府に改めて感謝申し上げます。日本政府の時宜を得た寛大さとリーダーシップは称賛に値するものであり、途上国へのサポートはワクチン接種による集団免疫獲得という共通の目標に向けた非常に有効な方法だといえるでしょう。

新型コロナウイルスの規制政策措置とは別に、世界が平和と安全の継続的な低下を目撃している時に、ガーナは西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)地域内の平和と民主主義の道標であり続けました。このことは、ガーナの成長にプラスに作用し、多くの場合、経済成長の要因として挙げられます。同期間中、我が国は技術分野と自動車分野への大規模な海外直接投資を誘致しました。日本貿易振興機構(JETRO)が行った調査でガーナは「将来の投資先トップ10」に選ばれています。日本企業がガーナを「将来の投資先」の第5位に選んだのは、安定した政治・経済・法制度、比較的良好な治安、拡大する市場規模と将来の成長性、中間層の増加、西アフリカで最高の航空ハブの一つとしての地位、そして進歩的な自動車政策等が評価されたためであると認識しています。

官民協働による、回復力が高く自立した包括的な経済の構築を目指し、アクフォ=アド政権では長年にわたりガーナと日本の二国間関係を強化してきました。その結果、2021年6月29日にガーナのアクラで豊田通商の自動車

組立工場が稼働し、初の「メイドインガーナ」のトヨタ車が発売されることになりました。また、2021年11月5日にJETRO アクラ事務所が開所されました。いずれも、両国の貿易と投資を促進し、民間部門の参加を促進すると期待されています。



写真上：アクフォ＝アド大統領がJETRO アクラ事務所開所式に出席

写真下：アクフォ＝アド大統領が豊田通商の組立開始式典に出席



1927年に野口英世博士が黄熱病研究のため当時のゴールドコースト（ガーナ）を訪れて以来培われてきたガーナと日本の特別な関係は、この困難な時代においても発展し続けています。ガーナは日本政府、国民、そしてすべてのパートナーの皆様の継続した協力と支援に感謝しています。

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、農業、主要なインフラプロジェクトの分野における日本政府の前向きで継続的な支援に、ガーナ国民は、両国の関係が今後ますます強くなっていくと期待を寄せています。

我が国は「西アフリカへの玄関口」であり続けるため、コロナ後の時代においても、より多くの日本企業が貿易、投資、観光の目的地としてガーナを選んでくださることを歓迎します。

海外投融資情報財団（JOI）を始めとしたパートナーの皆様、継続的なご支援に感謝いたします。私たち全員が力を合わせ、両国の経済を発展させていきましょう。

ガーナと日本の末長い友好関係を祈念して。